

# 第17回リバーフロント整備センター研究所報告会

河川・海岸グループ 研究員 廣部 勝己

平成21年9月11日(金)、科学技術館サイエンスホール(東京都千代田区)にて「第17回リバーフロント整備センター研究所報告会」を開催しました。この報告会は、当センターの水辺空間のあり方、保全・利用と整備、生態の保全と回復等に関する調査研究の成果と最近の話題を紹介し、河川技術者の啓発の場とすることを目的に年1回、「リバーフロント研究所報告」の刊行にあわせて開催しています。今年は17回目の開催となり、国土交通省や自治体関係者、学識者等、250名もの方々にご参加いただきました。ありがとうございました。

今年度の報告会では、まず、九州大学教授の島谷幸宏氏をお招きし、「生物生態学と河川工学を融合した川づくりの展望について」と題してご講話いただき、その後、昨年度当センターで実施している研究成果から次の7題について発表を行いました。

## ○発表内容

1. 太田川放水路における河口干潟の生態工学研究  
—5年間の中間とりまとめと実証実験計画—

要旨：生物学および河川工学の観点から、太田川の生物環境と物理環境の関係を理解するために取り組んだ成果の中間報告と実証実験計画案を報告した。

2. 河川船着場の有効活用に関する調査研究

要旨：河川舟運の船着場について、近年の利用・管理の実態や課題を整理し、今後の利用促進に向けた方策や、防災利用の可能性について明らかにした。

3. 地球温暖化に対応した生物モニタリング手法の検討

要旨：地球温暖化が生物生息環境に与える想定影響を分析・検討し、生物生息状況の変化をモニタリングするための項目・手法、さらに適応策のあり方を検討した。

4. 河川再生に関わる技術・情報の蓄積と国際ネットワーク構築の取り組み

要旨：ARRNとJRRNの2008年度の活動をレビューするとともに、当センターが目指す河川再生ネットワーク像を示し、更なる発展に向けた今後の展開を示した。

5. 岐阜県における多自然川づくりの取り組み～「岐阜県自然共生川づくりの手引き(案)」の作成～

要旨：岐阜県で作成した河川技術者向けの副読本

「岐阜県自然共生川づくりの手引き(案)」の内容を示し、今後、岐阜県において進める多自然川づくり(自然共生川づくり)を紹介した。

6. 高規格堤防の都市計画に関する研究

要旨：計画明示と将来の事業の支障物件を増やさないう観点での高規格堤防の都市計画決定の可能性について研究した。

7. 河床形態がサクラマス幼魚の越冬時餌環境に及ぼす影響

要旨：礫河床と岩盤河床での採捕個体の胃内容を比較することで、礫河床がサクラマス幼魚の越冬時の餌環境として果たす役割について明らかにした。

なお、今回の発表内容を含めた平成20年度の調査研究の成果は「リバーフロント研究所報告 第20号 2009年9月」に取りまとめて発刊するとともに、当センターホームページ「リバーフロント研究所報告」(<http://www.rfc.or.jp/rp/index.asp>)にてダウンロードが可能ですので、是非ご活用下さい。

皆様からいただいた様々なご意見等を踏まえて、今後も河川に係る諸問題への調査研究等を通じて社会への貢献に取り組んでいきたいと考えております。



島谷教授のご講話



当センター職員による発表